

FC バルセロナにおける“ソシオ制度”成立の歴史的前提 ~ジョアン・ガンペルとカタルーニャ主義~

A study on the historical premise of the formation of “socio system” in FC.Barcelona
~Joan Gamper and Catalan nationalism~

1K04B128-6

高橋 海人

指導教員

主査 石井昌幸先生

副査 堀野博幸先生

目的

本研究の目的は FC バルセロナというクラブのソシオ制度が成立する歴史的な基盤ができた背景を、クラブ創立当初の 1899 年から 1930 年を編年的に考察する中で、解明することにある。FC バルセロナはいまや世界的な名門クラブチームへと成長したが、それを支えるのは 10 万人以上のソシオである。これほどの大きな成長は、カタルーニャ地方におけるカタルーニャ主義に起因する。カタルーニャ地方の人々は、歴史と文化に彩られた独自のアイデンティティを熱烈に意識している。そのカタルーニャ主義がどのようにクラブと結びつき、どのようにクラブに貢献していったのかをみていく。その際、クラブ創立者である、スイス人ジョアン・ガンペルがクラブにどのように関わり、貢献したのかも合わせてみることで、1899 年から 1930 年までのソシオ数の増減理由を考察する。

方法

第一章では、1899 年から 1910 年の FC バルセロナとバルセロナの社会をみていく。そして FC バルセロナの創立をみて、同時期にできたカタラ、エスパニョール、他のクラブとどのような違いがあるのか、比較をする。その際、カタルーニャ地方の歴史的な背景も考慮しながらソシオ数の増加理由を考察する。

第二章では、1911 年から 1923 年までの歴史を扱う。そして当時の FC バルセロナとレアル・マドリードの対立と、その歴史的背景をみながら、1920 年代のソシオ数の急激な伸びを検証する。

第三章では 1923 年から 1930 年までの歴史を扱う。プリモ・デ・リベラの独裁政権下、どのようにソシオ数に影響していったのかを考えていく。

結果

1899 年 FC バルセロナの創立当初、カタラやエス

パニョールなどの他クラブとは異なる点がいくつかある。その違いがエスパニョールとの対抗意識を生むことになり、初のダービー事件へとつながる。1909 年のソシオ数の増加理由はグラウンドの借地が原因であるが、その背景には他クラブとの対立がある。

1911 年から 1923 年には FC バルセロナとレアル・マドリードの溝が深まる。その理由は、レアル・マドリードが国王の象徴であったからである。サッカーを巡る問題が多くなる中ソシオ数は伸びる。1922 年には新スタジアムが建設され、ソシオ数に大きく影響する。その背景にはカタルーニャ地方のカタルーニャ主義が関わっている。

1923 年のソシオ数の増加理由は、プリモ・デ・リベラの独裁である。そのシーズンを契機にソシオ数は減少していくが、これはプリモ・デ・リベラのカタルーニャ地方への強い弾圧や、景気後退・独裁反対運動の活発化などが影響している。

考察

現在 FC バルセロナは世界で 14 万人以上ものソシオを抱えるビッグクラブへと成長した。その歴史的な背景には、カタルーニャ地方独特の、カタルーニャ主義が深く関わっている。そして、それがソシオ数の増減に影響している。FC バルセロナの成長とカタルーニャ主義は切っても切り離せない関係にある。14 万人ものソシオを抱えるに至った経緯には、確かにビジネス的な戦略など様々な要因が重なっているのだと思う。しかし、ビジネス面のみでクラブの成長は必ずしも望めない。クラブを支える人々や、地域の歴史的・文化的な背景、社会、など様々な要因が絡まりあってクラブが成長することもあるから、そういった背景を知ることが重要であると考えられる。